

施策評価シート(平成29年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (8)自然との共生

(評価担当者)

生活文化部長 佐久間 利夫

■基本施策が目指す姿

豊かな自然の恵みが、良好に保たれ、次世代に受け継がれています。

■関連する分野別計画

■成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	H31	H32	H33		
1	自然公園の利用者数	人	13,717	H27	10,520					20,000
2	環境林整備面積	ha	1,187	H27	1,382					1,700
3										
4										
5										

■市民アンケート調査

項目	重要度	満足度	現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [H32]	市民アンケートの考察
1 自然環境が豊かである	重要度	満足度	1.27			
	重要度	満足度	1.03			
2 自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	満足度	1.13			
	重要度	満足度	▲ 0.17			
3 森林・里山や農地が保全されている	重要度	満足度	1.11			
	重要度	満足度	▲ 0.04			
4 自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	満足度	1.04			
	重要度	満足度	0.27			
5	重要度	満足度				
	重要度	満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B	<p>鈴鹿川等の源流域での産学民官による組織づくりに向けた取組や、「みえ森と緑の県民税市町交付金」の使途見直しによる環境林の間伐量の確保、中山間地域等直接支払交付金事業の協定締結農地での集落ぐるみの取り組みのほか、自然とのふれあいや外来生物の駆除において市民とともに取り組みを進めるなど、それぞれの施策の方向に関わる事業については概ね順調に進捗している。しかし、成果指標として掲げている自然公園の利用者数が、近年、減少傾向にあるなど、基本施策の目指す姿である「豊かな自然の恵みが、良好に保たれ、次世代に受け継がれています。」に向けて、市民の環境保全意識をまだまだ高める必要があることから、総合判定をBとした。</p> <p>まずまず進んでいる</p>
反省点・課題	
<p>森林や農地の持つ公益的機能を高めるため、引き続き森林や農地の保全について、市民の理解や関心を高めていく必要がある。とりわけ、鈴鹿川等の源流域に関して、産学民官による協議会を立ち上げ、自然資源の整備や活用など、具体的な活動計画の策定に向けて活動を進める必要がある。</p> <p>また、特定外来生物の駆除や生物多様性に関しても、本市が有する豊かな自然資源や自然公園等を活用して、市民の環境意識の更なる高揚を図る必要がある。</p>	

今後の展開方針

森林環境創造事業やみえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用して、環境林を間伐により整備を進めるとともに、農業・農村が有する多面的機能を維持し、耕作放棄地の拡大を防止するため、農地や水路、農道等の地域資源の保全活動への支援を行うことで、森林や農地の保全を図る。源流域については、「鈴鹿川等源流域である誇りと責任を明らかにする条例(仮称)」の制定に向けた検討を進めるとともに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会での産学民官による活動を通じて、人々が源流域の大切さを再認識し、多様な主体で守り育て、その豊かな自然等を次代に引き継いでいけるよう取り組みを行う。また、市民の生物多様性への意識向上を図るため、生物多様性地域戦略の策定に向けた検討を行う。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 自然資源の保全							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	鈴鹿川等の源流域における森林整備を推進するため、「かめやま会故の森環境整備協議会」を発展的解消し、産学民官の新たな組織づくりに取り組んだ。 また、鈴鹿川等の源流域における自然資源を保全し、次世代に引き継いでいくことを目的とした条例の制定に向け、その検討を進めた。		鈴鹿川等源流域の自然資源を保全するため、産学民官の取り組みを具現化する組織づくりに向けた準備を進め、次年度へとつなげることができた。			
							まずまず進んでいる
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
					/		
事業以外の取組	内容					活動	成果
	鈴鹿川等源流域の森林づくり協議会(仮称)の設立準備					A	B
鈴鹿川等源流域である誇りと責任を明らかにする条例(仮称)の検討					B	B	

施策の方向② 森林・里山・農地の保全							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	森林整備を推進し、森林の持つ公益的機能の向上を図るため、約160haの環境林の間伐を行った。また、身近な里山や竹林を保全する市民団体5団体に対し補助金を交付し活動を支援した。一方、農業施策では、多面的機能発揮促進事業で、17団体に支援し、451.8ha、中山間地域等直接支払交付金事業で13団体に支援し、88.6haの農地をそれぞれ保全することができた。		国・県の「環境林整備事業」や県の「みえ森と緑の県民税市町交付金」により、環境林の整備を行うとともに、森林や身近な里山を整備する必要性をイベント等により市民に伝え、地域の活動に繋げている。さらに、農業施策についても地域へ支援制度活用への働きかけを行い、地域での事業実施により、農地保全の推進を図ることができている。			
							まずまず進んでいる
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17030	森林環境創造事業		主	7,346 / 7,105	B	B
	17031	中山間地域等直接支払交付金事業		主	14,658 / 14,658	A	A
	17032	田園環境保全事業		主	3,520 / 3,509	B	B
	17033	みえ森と緑の県民税市町交付金事業		主	18,913 / 18,833	A	B
	17034	多面的機能発揮促進事業		主	15,657 / 15,630	B	B
	6063	森林病虫害防除事業		標	373 / 373	A	B
	6019	市単土地改良事業		標	40,899 / 39,981	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向③ 自然とのふれあいの機会の創出							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	亀山里山公園や亀山森林公園を活用したイベント等の開催や里山塾を開講し、市民が身近に自然と触れ合う機会を提供した。		自然公園の利用者数自体は減少しているものの、自然公園を活用したイベント等の実施により、自然環境に対する理解やその大切さを学ぶ機会を創出し、市民の環境保全意識の高揚に繋げることができている。			
							まずまず進んでいる
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	4067	里山公園管理費		標	7,485 / 7,039	B	B
	6055	森林公園管理費		標	3,051 / 2,948	A	B
	6068	会故の森整備・活用事業		標	240 / 99	A	A
	6029	一般事業(水産業費)		標	460 / 460	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果

施策の方向④ 多様な生態系の確保							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		【左記の活動により、施策は推進できているか】			
B	活動	<p>特定外来生物(アライグマ等)による農作物の被害を軽減するため市民に捕獲檻を貸し出し捕獲活動を支援するとともに、市民団体が実施する外来魚駆除に際し、資材(石灰)提供の支援を行った。また、市広報を活用し特定外来生物の駆除に関する周知を行った。さらに、生物多様性の維持に関する取り組みを進めるため、市総合環境研究センターに委託し調査研究を行った。</p>		評価	<p>特定外来生物の駆除及び多様な生態系の保全に対する市民意識の向上に寄与することができた。また、生物多様性地域戦略の策定に係る知見を得ることができた。</p>		
							まずまず進んでいる
関連事業	番号	事務事業の名称		区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	6009-2	有害鳥獣対策事業(駆除)		標	7,480 / 5,392	A	B
	4123	環境創造事業(総合環境研究センター事業)		標	2,000 / 1,836	A	B
事業以外の取組	内容					活動	成果